

学 校 安^{あん} 全^{ぜん}

3・4年



この本の つか 使い方



3・4年生のみなさんへ

この本を使^{つか}って、学級や学校のみなさんで学習し、交通事^じこ、誘拐^{ゆうかい}、地しんや火山のふん火など事けん・事このひ害にあわな^あいようにしましょう。

- 1 学校への行き帰りには、みなさん一人一人がどんなことに気をつけたらよいでしょうか。
- 2 家に帰ってから外へ出かけたり、遊んだりする時には、どんなことに気をつけたらよいでしょうか。
- 3 学校や家にいる時に、自然災害^{しぜんさいがい}などが起こったら、どうしたらよいでしょうか。
- 4 この本に書いてあることや学校で学習したことについて、家の人などとよく話し合い、きけんから自分を守るためにどうしたらよいか話し合いましょう。

ご家庭の皆さんへ

この本は、北海道の未来を担う子どもたちを、事件・事故災害の被害から守り、健康で安全に成長することを願って作成したものです。

- 1 学校で学んだことを話題にして、家庭でも安全な行動の仕方などについて指導いただき、子どもたちに安全な態度や行動が身に付くようにしてください。
- 2 本文中（裏表紙）の指導のねらいについて、わかりやすく説明してください。
- 3 家の周りなど、それぞれの地域の実情に合わせた具体的な指導をしてください。

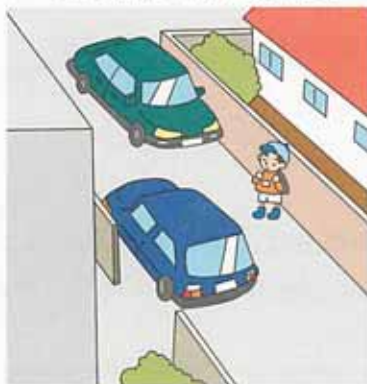
1 交通安全

(1) 通学路と安全な歩行

通学路は、学校へ通う子どもを守るために、安全な道を選んで、決めてあります。

- ① あなたの利用する通学路には、アからウのようなきけんな所がありますか。あったら、() の中に○をつけましょう。

ア 車がとくと歩けなくなるような道()



イ 信号機のない横たん歩道()



ウ 見通しの悪い曲がりかど()



- ② あなたの利用する通学路で、上の絵のほかに、きけんな所があったら、その場所を書きましょう。

- ③ あなたは、登下校の時、交通事故にあわないために、どんなことに注意しているか書きましょう。

(2) 雨の日、雪の日の安全 あんぜん

- ① 雨の日は、どんなことに注意したらよいか、下の絵を見て、考えて書きましょう。



- ◆ かさをさす時、あなたは、どのように注意をしますか。



- ◆ 雨の日は、運転手さんからよく見えません。どんな注意が必要ですか。



- ◆ あなたは、曲がり角に立った時、左に曲がってくる車に、どのような注意をしますか。



雨の日は、とくに気をつけて、歩きましょう。
運転手さんからよく見えるように、明るい色の服
やかさを身につけましょう。

② 雨の日や雪のつもった道路は、なぜ、きけんか、下の絵を見て、みんなで話し合しましょう。

ア せまくなってしまう道路



イ 見通しの悪い道路



ウ 車のすべりやすい道路



エ 雪のつもった道路での遊び



話し合ったこと

(3) 飛び出しのきけん

- ① 交差点の向こうがわで、友達がよんでいます。このあと、どんなきけんなことが起こるか、考えて書きましょう。



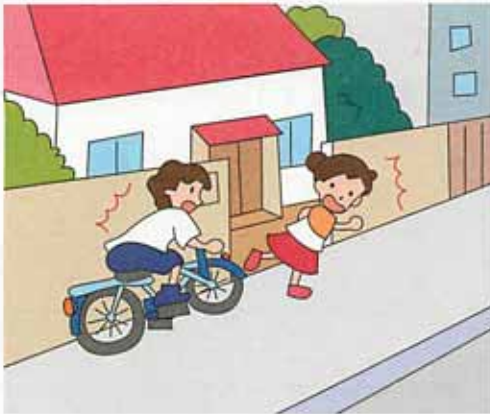
- ② 道路に飛び出して、事ここにあわないために、どうしたらよいか、考えて書きましょう。



ア 遊んでいる時

イ 止まっている自動車の前や後ろをわたる時



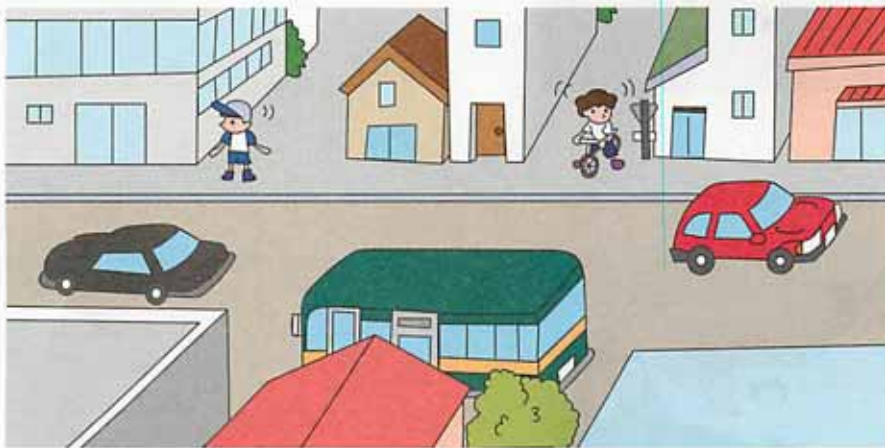


ウ 家から道路に出る時



エ 曲がり角では

左右の安全をたしかめましょう。



③ あなたの家のまわりで、一時停止して安全をたしかめる必要のある所はどこですか。

(4) 家の周りのきけん

① 下の絵を見て、どんなきけんがあるか、書きましょう。

◆ 工事げん場での遊び



◆ 道路での遊び

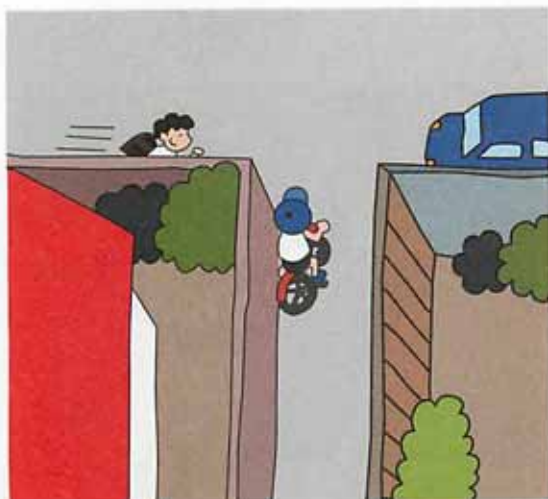


◆ じよ雪車の近くでの遊び



(5) 自転車のきけん

- ① せまい道路から広い道路に出ようとしています。どんなきけんが考えられるか書きましょう。



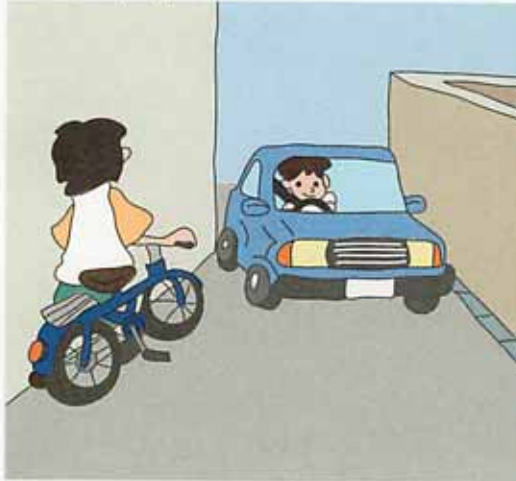
- ② 自転車の事故が、なぜ発生しているのか、下の絵を見て考えましょう。



(6) 自転車の安全な乗り方

自転車に乗る時は、次のことに注意しましょう。また、自転車の正しい乗り方について、みんなで話し合ひましょう。

せまい道で車と出会った時は、止まって、待つ。



ふみきりでは、一時停止して、左右をかくにんする。



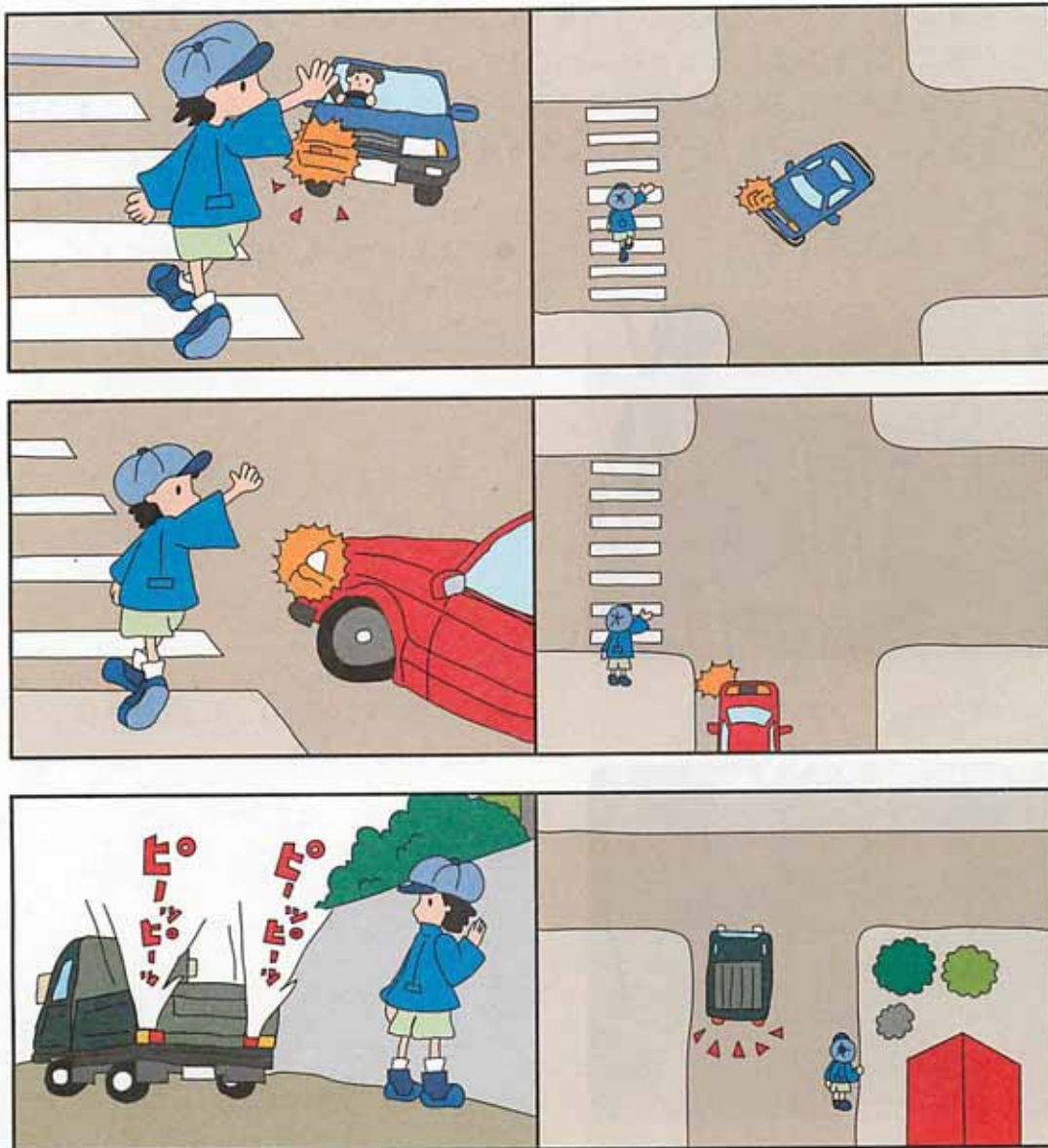
見通しの悪い所では、一時停止をする。人ごみでは、乗らないで、おして歩く。



話し合ったこと

(7) 自動車の出す合図

- ① 自動車が合図を出しています。どの方向に進もうとしているのか図に→を書きましょう。



2 生活安全 あん ぜん

(1) 登下校の安全 とう げん ぜん

近ごろ、子どもが学校の行き帰りに、大切な命にかかわるような事けんや事にまきこまれることがふえてきています。

みなさんが、ふだん何気なくくらししている家の周りや通学路は、本当に安全でしょうか。もう一度きけんな所はないか、見直してみましょう。

① 「見えにくい所」 みえにくい ところ



◆ 「見えにくい所」は、どうしてきけんなのでしょう？

② 「入りやすい所」 いりやすい ところ



◆ 「入りやすい所」は、どうしてきけんなのでしょう？



● 「入りやすい所」は、みんなにとって便利かもしれないけれど、悪いことをしようと考えている人にとっても都合のいい場所なのです。

③ 近くに、こんな所^{ところ}はありませんか？



- 北海道は、特に^{とくに}じょう雪のため、ガードレールのない歩道が多いんだ。
- 車に引きこまれないうちに「こわい」と思ったら大きな声を出してにげましょう！

◆ 「ガードレールのない歩道」は、どうしてきけんなのでしょう？

◆ 車に引きこまれそうになったら、どうしたらいいか、話し合ってみましょう。

④ こんな所^{ところ}も、きけんです。



◆ みんなの通学路^{みんかのつがくろ}の近くにも、自転車^{じてんしゃ}が置きっ放し^{おきっぱなし}の道路などはないか、話し合ってみましょう。

《ご家庭の皆さんへ》

ふだん、お子さんがよく遊んでいるところに、危険な場所はありませんか？
お子さんと一緒に出かけて、地域の人々の注意が向けられていないような危険な場所はないか調べて、教えてください。

*危険な
場所

(2) 通学路の安全マップを作ろう！

自分たちの住んでいるところについて、一番知っているのは、実に住んでいるわたしたちです。自分たちがふだん通学している道路のきけんなどところについてまとめた「通学路の安全マップ」を作ってみましょう。

① グループを作ろう。

通学路が一しょの友だち同士で、グループを作り、役わりを決めましょう。

は ん 長		副 は ん 長	
地 図 係 り		インタビュー係り	

② こんな服そうで



◆ わんしょうをつけて、地いきの人にも安全の大切さをよびかけます。

他に、学校の外で学習する時、注意すること、心がけることはないか、話し合っておきましょう。

③ 地図を作ろう。



◆ 学校から自分の家までのかん単な地図を作りましょう。

◆ まず、道路や目印になる建物を書きます。

◆ 次に、子ども110番の家などを書きます。他に書きこんでおいたほうが便利なことはないでしょうか。

- ④ 実^{じつ}さい^しに町^{まち}に出^でて
調^{しら}べてみよう。



- ◆ インタビューする時には、どんなことに気をつけ
たらいいでしょう。

- ⑤ 安全^{あんぜん}マップ^{まん}を完^{かん}成^{せい}
させよう。



- ◆ きけんな場^{しよ}所^{じこ}を地^ち図^ずの上^{うへ}に書^かきこみま^ます。
(「見えにくい所」や「入りやすい所」)
◆ □ (ふきだし) などを使い、なぜ、そこがあぶ
ないか、理^り由^{ゆう}を書^かきま^ます。
◆ グループとして工^く夫^{ふう}したところを書^かきま^ましょう。

- ⑥ 発^{はつ}表^{びょう}会^{かい}をしよう。

- ◆ 一番^{いちばん}いいたいことは、どんなことですか？



- マップ作りでわかったことについて、学^{がく}級^{きゅう}
の中^{なか}で発^{はつ}表^{びょう}会^{かい}をし^したり、と^なり^りの学^{がく}級^{きゅう}と^との交^{こう}流^{りゅう}会^{かい}
を開^{ひら}いたりするこ^{こと}で、自^{みづか}分^{ぶん}た^たち^ちの町^{まち}の安^{あん}全^{ぜん}の
こ^{こと}をま^まっとよ^よく知^しるこ^{こと}がで^できま^ます。

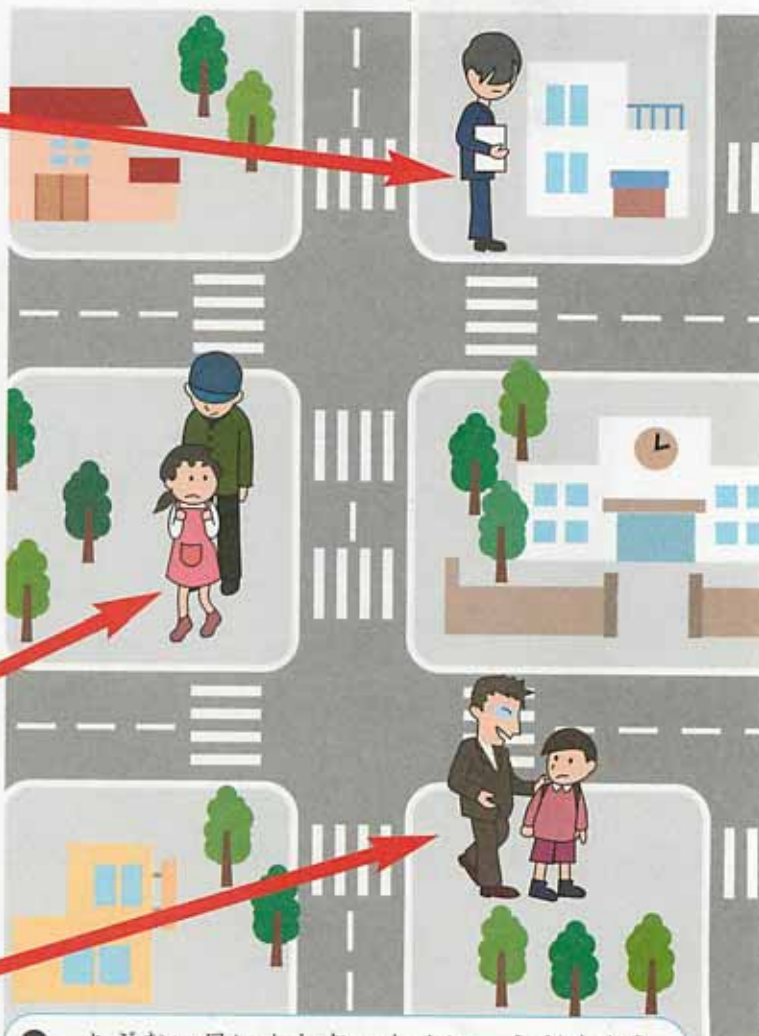
(3) こんな時は、どうしたらいいでしょう

みなさんの周りには、^{あん}安心や^{あんぜん}安全をうばってしまうかもしれないことがたくさんひそんでいます。こんな時、みなさんならどのようにしますか？ 考えてみましょう。

◆ 「はけん^{けん}所のものですが、食ちゅうどくのけんさにきました。げんかんを開けてください。」

◆ 道を歩いていると後ろからずっとついてくる人がいます。

◆ 「近くにゆうびん^{ゆう}局はありますか？」 教えると「よくわからないからついてきてくれない？」と言われたよ。



- あぶない目にあわないために、ふだんから次のようなことを心がけておきましょう。
 - ☆ 両手^{りょうて}を広げたくらいはなれて話す。
 - ☆ できるだけ一人で行動^{どう}しない。
 - ☆ あぶないと感じた時には、大きな声を出してにげる。
 - ☆ 子ども110番の家の使い方^{つかい}を練習^{れんしゅう}しておく。

《ご家庭の皆さんへ》

それぞれ想定されている場面ごとに、お母さんやお父さんが、「誘い役」を演じて、お子さんが上手に断ることができるか、練習をしてみるのもいいですね。



◆ 「お家の人^{おうちの人}が今そこで交通事故^{こうつうじこ}にあったよ。病院^{びょういん}に連れて行ってあげるからいっしょにおいで。」

◆ 「カッコいい自転車^{じてん}だね。ちょっとかして！」

◆ ほかにどんな言葉^{ことば}をかけられたことがありますか？ その時はどのように答えましたか？



(4) こんな時、どんな行動^{どう}をしたらいいでしょう

A男くんが友だちと公園で遊^{あそ}んでいると、知らない人が近づいてきました。
その人が…

「A男くんでしょ。今、お家の人が車にぶつかってケガをしたよ。病院^{びょういん}に連れて行ってあげるからいっしょに行こう」

さあ、A男くんはどうしたらよいのか。みなさんもいっしょに考えてみましょう。



A男くん

えっ! ほんとですか。
どうしよう。
ケガのぐあい^{ぐあい}は?
病院^{びょういん}はどこですか?

とつぜん、こんなことを言われると、大切な家族^{ぞく}がどうになってしまうのかと心配^{しんぱい}になりますね。

もし、あなたがいっしょにこの話を聞いていたら、どうするでしょうか? 自分がそうするだろうと思う考え^{えんが}を選んで理由^{りゆう}を書いてみましょう。

① えっ、わあどうしよう。A男くん早く行ったほうがいいよ。

② ちょっと待^{まち}って。なにか変^{へん}だよ。心配^{しんぱい}だったら家に帰ったほうがいいよ。

○ あなたが選^{えら}んだ方^{かた}はどちらですか? ☐

○ 選^{えら}んだ理由^{りゆう}を書いてみましょう。

○ こんな話を聞いた時に一番大切なことは、どんなことでしょうか?

①を選んだ場合には…

◎もし、事が本当だったら、

- ・知らない人がむかえに来るでしょうか。
- ・どうして「A男くん」という名前を知っていたのでしょうか。
- ・たしかめる方法はないのでしょうか。

たとえば、「本当の知り合いしか知らないこと」を聞いてみる。

☆「人ちがいじゃないの？ ぼくのお父さんの名前を知ってますか？」

※その他、お父さんの会社の名前や、メガネをかけているか…などを考えてみるといいですね。

②を選んだ人は…

落ちついて行動できる人ですね。どんなにおどろくことを言われても、自分の目や耳で信らいてできる人の言うことをたしかめるまでは信じないようにしましょう。



- 子どもをねらって近づいてくる人は、相手をあわてさせて、冷静にはんだんさせない、話に引きこむのが上手などの持ちようがあります。
- きげんな目にあわないためには、次のようなことが大切です。
 - ・落ち着いて考える
 - ・その人についていくのではなく、自分で確かめる
- 落ち着いて考えられないと思ったら、次のような行動をとります。
 - ・はっきりと ことわる
 - ・その場から 立ち去る
 - ・話をしない
- もし、急に知らせなければならぬことができた場合はどうするのか、家の人と相談しておきましょう。
- 日ごろから「もし、こんな時は」を考えておくのもいいですね。

合言葉は『いかのおすし』
約束守って、気をつけようね！

必ず、
行き先を言う！
ついて

い
か

ない

知らない人にはついていかない。
あぶないところにはいかない。

車に

の

らない

知らない人の誘いにのらない。
知らない人の車にのらない。

お

おごえをだす

危ないと感じた時は
大きな声で「助けて!」と叫ぶ。

す

ぐ逃げる

こわかったら大人のいる方に
すぐ逃げる

どんな人が何をしたが、
周りの大人に知らせる

し

らせる

周りの大人に



北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議

(5) 学校のしき地内で見知らぬ人に出会ったり、話しかけられたりしたら

学校には、教育委員会の人、PTAの役員など、いろいろな人が出入りして、みなさんの学校での生活や勉強のお手伝いをしてれています。しかし、大人たちのすきをねらって、みなさんをきずつけようとする不しん者が入ってくることもあります。

学校のしき地内や校しゃ内であっても、何か変わった様子はないか、不しんな人かげはないか、いつも注意して見ていることが大切です。

① 今日、学校で出会った人が、どんな人だったか、思い出すことができますか？



◆ 男の人？ 女の人？ 何さいくらい？

◆ せの高さは？

◆ どんな服そうだった？ 身につけていたものは？

◆ その他に気づいたことは？

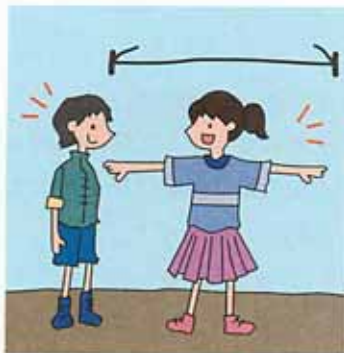
② 校しゃ内だけではなく、校しゃの周りやグラウンドでも、気になることはありませんか？



◆ 校門の近くやグラウンドの木のかげから、中の様子をうかがっているような人を見かけたら、どうしますか？

◆ どんな人だったか、思い出せますか？

③ 不しん者に、うでなどをつかまれそうになったら、どうしたらいいでしょう。



◆ まず、自分の身を守るためには、「相手からできるだけはなれる」、「大声で助けをよぶ」などのことが考えられます。それぞれの学校や教室の実さいの様子に合わせて、どんなことができるか、考えてみましょう。



◆ でも、とつぜん「大声」を出せるでしょうか。先生と一しょに役わりを決めて、練習してみましょう。
(本当に事けんが起きた時のことを考えて、真けんをやってみましょう)

また、周りの人たちにできることはないか、話合ってみましょう。



● 知らない人と話をする時には、相手と少しはなれて話をしましょう。

だいたい、両手を真横にのばしたぐらいのきよりです。

実さい、どのぐらいのきよりか、やってみておぼえておくことが大事です。

(6) 校しや内のきけんな場所をさがそう

① 階^{かい}だんでは、どんなケガが多いのでしょうか。



◆ 階^{かい}だんやろう下の^{まが}曲り角には、一つまちがうと大きなケガにつながるきけんがあります。どんなことに気をつけるとふせげるのでしょうか。



② 中学年になると教室が2階^{かい}や3階^{かい}になることもあります。



◆ 教室の階^{かい}が上^あがると地面^{じめん}からのきよりも長くなります。自分たちが落ちることだけでなく、物^{もの}を落^おとしてしまうきけんもあります。まどの近くでは、どんなことに気をつけるとよいでしょう。

- ③ ろう下にも、さまざまなきけんがありそうです。かべから、いろいろなものが
出ている場所もあります。



- ◆ みなさんのどんな行動が、どんなきけん
につながっているのか、考えてみましょ
う。



- ◆ ほかに、きけんな場所はないか、さ
がしてみましょう。



- 元気いっぱいのみなさんは、けがをすることも
多いため、友だちとぶつかりそうな場所を予そう
して、行動するなどの注意が必要です。
- また、「つい調子に乗ってしまった」、「ふざけ
ていた」など、その時の気持ちや行動が原因で
けがをしてしまうこともあります。
- 相手にけがをさせないためにも、ふだんから、
安全に対する心がまえや行動の仕方について、考
えておくことが大切です。

3 さい 害 安 全 がい あん ぜん

(1) 地しんのきけんと安全かくにん あん ぜん

平成16年11月には、新がた県で大きな地しんがあり、多くのたてものがこわれました。北海道でも地しんは多く発生しています。

地しんは、いつ、どこで起こるかわからないので、日ごろから地しんについての学習を通して、じゅんぴと訓練をしておきましょう。

① 地しんが起きたら



地しんが起きたら、どのように行動すればよいか話し合しましょう。

いろいろな場面を考えてみましょう。

- ・教室にいる時
- ・特別教室にいる時
- ・登下校の時
- ・乗り物に乗っている時
- ・家に一人でいる時

など

② ぼうさいマップを作ろう。

家から学校までの、きけんな所やひなん場所を調べ、マップを作ろう。

きけんな所…海・川・がけ・ビル・ブロックべいや石がき・自動はん売機・

橋や歩道橋、ガスタンクや石油タンク

【ぼく、わたしのぼうさいマップ】

③ 家族でぼうさい会議を開こう。

さいがい時に最もこまることは、水や食料のかくほです。また、家具の転とうぼう止、ひじょう用持ち出し品のじゅんぴなど、家庭でそなえておくべきことは多くあります。日ごろからのそなえが、いざという時大いに役立ちます。

【ひなん場所は…】

場 所	
電 話	

【家族の連らく、待ち合わせ場所は…】

けい帯	
待ち合わせ場所	

「NTTさいがい伝言ダイヤル171」の利用方法を調べてみましょう。

〈伝言を聞く「2」をダイヤル。
伝言を録音する「1」をダイヤル。〉

【たおれたりするものはないか調べましょう】

【地しんから身を守るための10か条】

- 1 まず、身の安全
- 2 すばやく火の始末
- 3 戸を開けて出口をかくほ
- 4 火が出たらすぐ消火
- 5 外に出る時は、あわてずに
- 6 せまい路地やブロックべいには近づかない
- 7 山くずれ、がけくずれ、つ波に注意
- 8 ひなんは徒歩で
- 9 協力し合って、きゅうご作業
- 10 正しくじょうほうを聞く

【持ち出し品のじゅんぴは…】

の み 水	お 金
た べ も の	し た ぎ
く す り	ち り 紙
ラ ジ オ	タ オ ル
かいちゅうでんとう	軍 手

このほか必要なものはないか考えましょう。

(2) 火山のきけんと安全^{あんぜん}かくにん

わたしたちの住んでいる北海道には、ふん火するかもしれない火山が18もあります。火山が、ふん火すると、とてもきけんなことが起こります。ふん火から命^{いのち}を守る勉強^{まも}をしましょう。

① ふん火したら何が起^おこるの？

ふん火した時、一番おそろしいのは火^ひさい流^{りゅう}・火^ひさいサージです。火^ひさい流^{りゅう}・火^ひさいサージは、温^{おん}度^どが高くて、人がまきこまれると焼^やけ死^しんでしまいます。

自動車よりもはやいスピードで山を下ってきます。



ふん火の時、たくさんの火山灰^{ばい}もふります。火山灰^{ばい}がふると、昼^{ひる}でも夜^{よる}のように真^まっ暗^{くら}になってしまいます。

人がたくさんすいこんでしまうと、ちっそくしてしまうこともあります。



マグマが地^じ面^{めん}の近^きくまで上^あがってき、地^じ面^{めん}がわれたり、もりあがったりすることもあります。

ほかにも自動車^{じどうしゃ}くらいの大^{おお}きな石^{いし}がとんでくることがあります。

火山がふん火するととてもきけんです。



(3) 火さいのきけんと安全かくにん

火さいにあった場合には、^{おち}落ち着いた行動することが大切です。
次のような場合は、どのようなことに気をつけたらよいでしょうか。

- ① けむりが発生した時、あなたは、どのような行動をとりますか。



◆ 話し合ったことを書き出してみましょう。

- ② こんろの使用中にその場をはなれたために、火さいが起きています。どんな注意が必要ですか。



◆ 話し合ったことを書き出してみましょう。

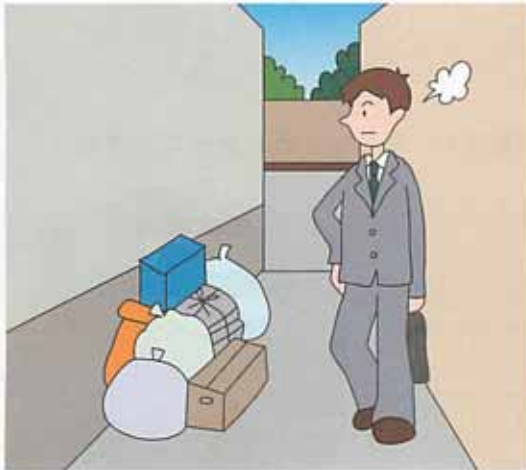
- ③ 花火で遊ぶ時は、どんな注意が必要ですか。



◆ 話し合ったことを書き出してみましょう。

- ④ 火事を起こさないようにするには、どんなことが必要ですか。
下の絵を見て、みんなで話し合ひましょう。

ア 家の周り



イ 見えないところ



ウ 火遊び



- ◆ 自分たちにもできることはないでしょうか。



- 火事を起こさないためには、家の周りに、もえやすい物を置かないなど、わたしたちが気をつけることもたくさんあります。
- 花火など火を使うような場合は、そばに水を用意して、お家の人といっしょに、遊ぶようにしましょう。

(4) 風水害の きけんと 安全かくにん

平成15年や16年には、大きな台風が北海道に上陸し、大きなひ害をうけました。

ひ害にあわないためには、風水害のきけんについて学習し、じゅんぴと訓練をしておきましょう。

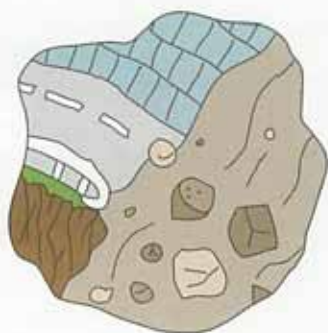
① 台風のひ害には、どのようなものがあるか、みんなで話し合ってみましょう。

◆ 話し合ったことを 書きだしてみましょう。



② 台風の時、通学路できけんな所がないか、調べましょう。

◆ きけんな所を 書きだしてみましょう。



③ これまでに起きたわが国の台風のひ害について、調べてみましょう。



主 題 一 覧

【交通安全】

主 題		指 導 の ね ら い
1	通学路と安全な歩行	通学路の意味を知り、安全な歩行ができるようにする。
2	雨の日、雪の日の安全	気象の変化によって生じる目に見えない危険について知り、安全な行動の仕方を身に付ける。
3	飛び出しのきけん	車道に出る時は必ず、いったん止まって安全を確認する習慣を身に付ける。
4	家の周りのきけん	地域の危険な所を知り、目に見えない危険について理解し、安全な遊びを工夫する。
5	自転車のきけん	道路状況を判断して、安全に自転車に乗れるようにする。
6	自転車の安全な乗り方	自転車をよく点検し、道路の状況に応じて安全な乗り方ができるようにする。
7	自動車の出す合図	自動車の出すいろいろな合図の意味を知り、自動車の動きを予測して通行できるようにする。

【生活安全】

主 題		指 導 の ね ら い
1	登下校の安全	通学路の危険な場所について知り、危険を避けるための方法を身に付ける。
2	通学路の安全マップを作ろう!	校区内の安全マップを作成し、学校の周りの危険な箇所などを記入した安全マップについて知る。
3	こんな時は、どうしたらいいでしょう	身の回りの危険について知り、犯罪の被害にあわないようにするための方法を身に付ける。
4	こんな時、どんな行動をしたらいいでしょう	様々な場面に応じた行動の仕方を知り、犯罪の被害から自分自身を守る方法を身に付ける。
5	学校のしき地内で見知らぬ人に会ったり、話しかけられたりしたら	校内に出入りする人々への対応をとおして、非常時の安全な行動の仕方を身に付ける。
6	校しゃ内のきけんな場所をさがそう	校内の危険な場所について知り、学校生活における安全な行動を身に付ける。

【さい害安全】

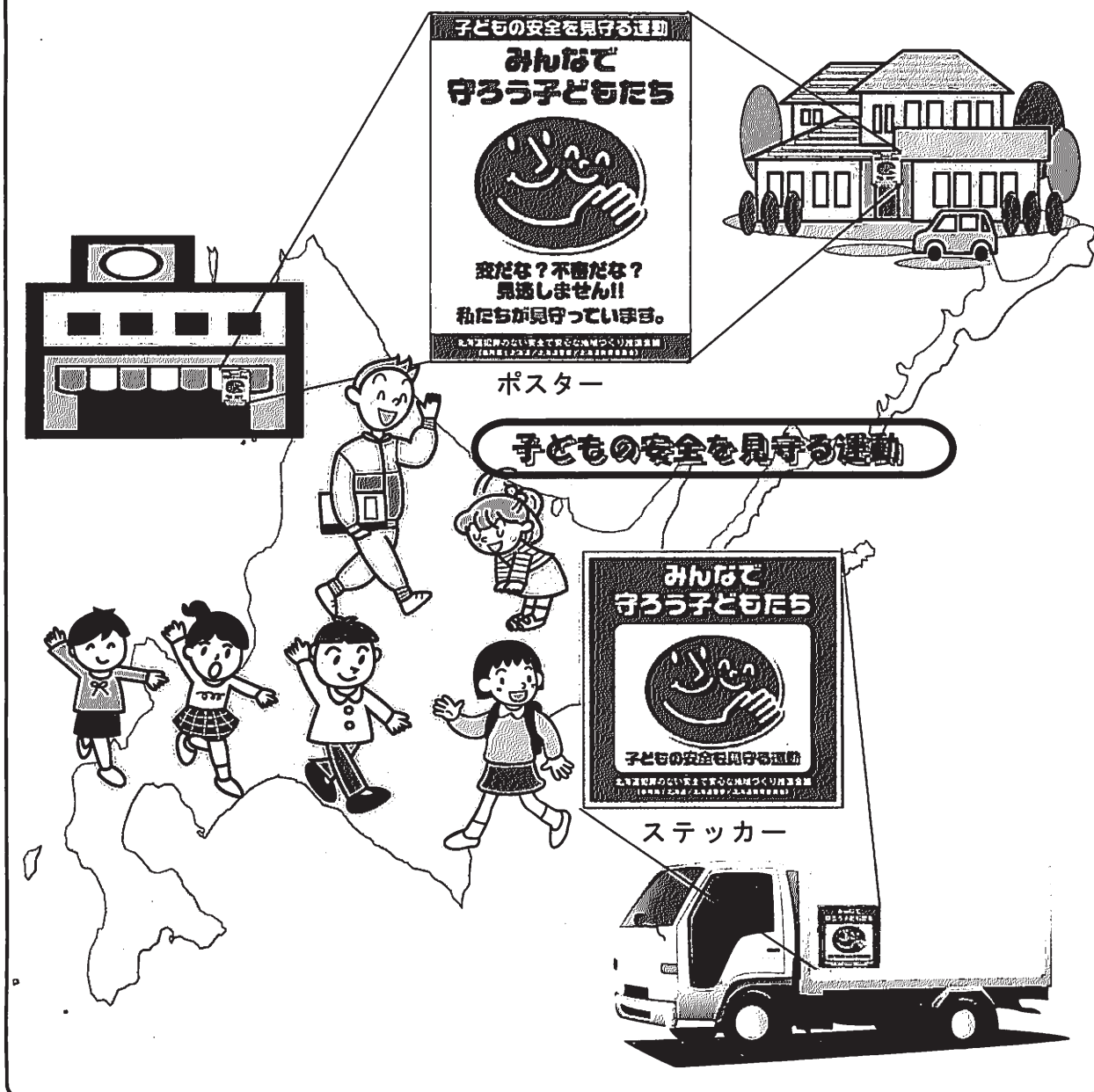
主 題		指 導 の ね ら い
1	地しんのきけんと安全かくにん	地しんが発生した時の避難経路や避難場所について知り、さまざまな場面に応じた避難の仕方を身に付ける。
2	火山のきけんと安全かくにん	火山災害が発生した時の避難場所や避難方法について知り、安全な行動の仕方を身に付ける。
3	火さいのきけんと安全かくにん	火災の起こりやすい状況について知り、火災の被害にあわない方法を身に付ける。
4	風水害のきけんと安全かくにん	風水害などの危険について知り、通学路などでの安全な行動の仕方を身に付ける。

学 校 安 全 ー平成22年度ー 3・4年

作成協力 七 飯 町 立 鶴 野 小 学 校 校長 佐藤 一夫
 安 平 町 立 早 来 小 学 校 教諭 中島 清人
 札 幌 市 立 山 鼻 小 学 校 教諭 志村 智
 江 別 市 立 対 雁 小 学 校 教諭 山口 純一
 白 老 町 立 社 台 小 学 校 教諭 武藤 史舟

編集・発行 北海道教育庁学校教育局参事（生徒指導・学校安全）

- あやしい人に、声をかけられたり、追いかけられた時には、このポスターをはってあるお店や会社やステッカーがはってある自動車に助けを求めましょう。



※ 北海道・北海道警察・北海道教育委員会など60団体で構成する「北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議」では児童等の安全確保を図るため、「子どもの安全を見守る運動」を実施しています。

この運動は、道内の各種施設や各種事業所等の協力をいただき、啓発ポスターを掲示するほか、事業用等の車両に「子どもの安全を見守る運動」のステッカーを掲示して、子どもたちの安全に対する大人への注意喚起を促すとともに、事件・事故を目撃したり、助けを求められた場合に、警察等への通報や一時保護に協力し、子どもの安全を図るものです。

平成22年度
「学 校 安 全」
3・4年
北海道教育委員会

学 校

学年・組

名 前